

2025年10月3日~5日に広島で開催された、2025年平和フォーラムピーススクールに参加してきました。

講義内容は政治や選挙、原水禁運動、平和運動、人権課題等、日常生活にも関わる幅広いテーマであり、伝えることの難しさを感じる場面もあったが、「語り継ぐ」「学び続ける」ことの重要性 を強く意識するきっかけとなりました。

また、講義やフィールドワークを通じて、社会課題を身近に捉え、自分の言葉で考えを表現できたことは大きな成果であり、今後の日本のあり方を「憲法」や「平和」の観点から考え、日常の中でその意識を持ち続けることが、今を生きる私たち一人ひとりに求められていることを強く感じることであり、それと同時に伝えることの難しさを感じつつも、 //

語り継ぎ、学び続けることの意義を深く考える機会となりました。

グループワークを通して「憲法」「平和」「労働者運動の拡大」などについて議論を深め、正しい知識の共有と今後の運動のあり方を考える貴重な時間となりました。 様々な組合の人間が集まることで、異なる立場と視点からの話し合いをすることができ、私個人としても学びの幅を広げるとても良いきっかけになると感じました。 今回の学習を通じ、過去の歴史を正しく学び、次の世代へと継承していく意義を再確認する貴重な機会となりました。青年部として参加した意味をしっかりと理 解し、今後も平和と人権を守る活動に青年部としても積極的に参加していきたいです。

全港湾東海地方清水支部青年部 青年部長 前嶋皓介

STOP 再核動! さようなら原発北海道集会開催



10月18日に札幌大通公園にて、北海道電力泊原発の 再稼働反対や脱原発を訴える「STOP 再稼働!さような ら原発北海道集会」が開催され、北海道平和運動フォー ラムなどでつくる実行委員を中心に友誼団体も集まり 300名ほどが参集し、北海道地本からも川村委員長を 含め、釧路・小樽・苫小牧・留萌の各支部総勢15名が参 加しました。主催者からの挨拶から始まり、北海道平和 運動フォーラムの池田賢太共同代表は、東京電力福島第 一原発の廃炉に向けた道筋を立てられないばかりか、核 燃料サイクルの破綻や核廃棄物の処分方法も決められな い原子力推進政策に終止符を打つべきであり、未来の世 代のためにもこれ以上核のごみを増やしてはいけないと 訴えていました。その後、再稼働に反対する友誼団体な ど2名が発言し、最後はシュプレヒコールを行いながら デモ行進を行い集会が終了しました。集会に参加し、函 館市から最短で17.5km にある、青森県大間原発は、 猛毒のフルMOX燃料を使用する原子炉で技術的にも制 御が非常に難しく、ひとたび事故が起きれば下北半島か らの避難は困難を極め、被害は道南地方に及ぶという話 しを聞き、改めて原発事故の恐ろしさを感じました。今 後も脱原発社会の実現を訴えていくため、積極的に集会 北海道地本 書記次長 川奈部 若之 へ参加していきます。

